

レッツ コミスク Let's join community school



1 田んぼの活動に、田んぼレディス登場

学校運営協議会で考える教育の柱は3つ。これを「俊斎」「和太鼓」「田んぼ」「ボランティア」4つの部会で協議を重ねています。

田んぼ部会は、学校が休校中も連絡を取り、休校明けに田植えができるようにしました。また、一人一人が関わりを体験できるようにバケツ稲の活動を行っています。

田んぼの活動に主体的に協力してくれる方々は15~20人ほど、その中の女性は5人ほどですが、田んぼレディスと呼ばれています。



2 和太鼓で地域の心がひびきあう

赤井小学校では、和太鼓の伝承活動が28年経過して、和太鼓がかなり傷んできていました。このことが学校運営協議会の協議で取り上げられ、地域での寄付活動につながりました。

当初目標が80万のところ220万円が集まり、無事に修繕できて市に備品登録する予定です。それだけでなく、福島県の太鼓店に修理を依頼したところ、太鼓店から新しい太鼓を提供をいただくことになり、6年生が修学旅行の際にお礼を兼ねて訪問し太鼓を使って演奏を行いました。この様子は福島県のテレビで放映されました。



3 ボランティアスタッフ大活躍

PTAの他に、おやじの会やeおっかあ、和太鼓親の会など学校の教育活動や環境づくりを支援する団体があります。

生活科の校外学習の支援やミシン学習、スキルアップタイムの学習等の支援など教科等に関わる支援の他に、運動会前のトイレの清掃など環境づくりにも力を入れています。

表「あひっすのためのボランティア」募集しています！

活動内容	活動日時	活動場所	活動別QRコード
1. 学校運営協議会	毎月第1回、第3回	赤井小学校	0001
2. 田んぼ活動	毎月第2回	赤井小学校	0002
3. 和太鼓活動	毎月第4回	赤井小学校	0003
4. ボランティア活動	毎月第5回	赤井小学校	0004
5. 環境活動	毎月第6回	赤井小学校	0005
6. 読書活動	毎月第7回	赤井小学校	0006
7. その他	毎月第8回	赤井小学校	0007

活動別QRコードが設定された赤井小ボランティア募集のお知らせ

地域の偉人「大槻俊斎」に学ぶ

第7号



赤井小学校では、総合的な学習の時間に小学校3年生から5年生は「知ろう！赤井の偉人 大槻俊斎」のテーマで1時間、6年生は「伝えよう！赤井の偉人 大槻俊斎」のテーマで20時間の計画で郷土の偉人である大槻俊斎氏の足跡を志教育の一環として学習しています。

幕末に地域の応援を受け志高く江戸に出て、その後長崎で西洋医学を学んだ後江戸で開業、現在の東大医学部にあたる種痘所（西洋医学所）の初代頭取となった大槻俊斎氏のことを学びます。

授業には、地域の手で制作された分かりやすい副読本や紙芝居が使われています。



「独眼竜」で知られる伊達政宗が右目を失明したのは、幼少時にかかった天然痘が原因で、近代以前の日本では失明の原因の最たるものがこの天然痘でした。致死率もですが、命を取りとめても失明や痘痕などが後遺症として残ることも大きな問題でした。

大槻俊斎は、天然痘の治療のため種痘所をつくり、東大医学部の前身となる西洋医学所初代頭取となった人です。武士の家計簿を書いた磯田道史氏は著書「歴史の楽しみ方」で、次のように書いています。

「大槻俊斎は、まさに幕末の天才ブラックジャックである。それまでの外科医は傷口を縫う程度であったが、俊斎は体内の破断した血管を1度で結紮する止血手術や弾丸で破碎された手足の裁断手術まで手がけた。さらに、麻酔薬の使用法まで説き、ペリーの黒船が来るとこれを「銃創瑣言」と言う書物にして出版し、日本人はこれで近代医学の手術と言うものを知った。ペリー来航時、軍隊で使う銃の知識を学ぼうとしたものは多かった。しかし、銃の戦いになれば多くの人が傷つくから、銃で痛めた傷の治療学が必要とまで考えられたものは少なかった。そういう人間本位の考え方のできる人物は、いつの時代も希少価値だが良仙や俊斎はその考え方ができた。天然痘から人々を救おうと、幕府に願い出て種痘所を建てている。この種痘所は実際には解剖学まで教える西洋医学所となり、これがのちに東大医学部となる。俊斎はその初代頭取となり、医者として頂点を極めた。」

関係図（大槻俊斎と手塚家）



有名な漫画家「手塚治虫」と「大槻俊斎」は親戚関係。

大槻俊斎氏の像(市保健センター)

コミュニティ・スクール東京デジタルフォーラム紹介

11月24日(火)に、市コミュニティセンターを会場に令和2年度東松島市コミュニティ・スクール研修会「地域の学びシンポジウム」を開催しましたところ、多数の学校運営協議会の委員の方々に参加いただきました。ありがとうございました。講演やディスカッションでも触れられましたが、教育をめぐる環境は、社会情勢の変化を受けて日々変わっていることを実感します。

文部科学省の令和2年度の地域とともにある学校づくり推進フォーラムは、新型コロナウイルス感染防止のためにオンラインで行うことになっています。12月20日まで申し込み、誰でも参加可能です。新しい発見があるかもしれません。興味のある方は、どうぞご参加ください。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

令和2年度
地域とともにある学校づくり
推進フォーラム(東京デジタルフォーラム)

これからの学校と地域
デジタルフォーラム
フォーラムの新しい形

CS マイスター大集合！
知る・学ぶ、そしてやってみる！

CSマイスターの講話をオン・デマンドで配信。聴きたい話を何度でも！質問はアンケートフォームに入力してください。

CSマイスターとは？
コミュニティ・スクール、地域学校協働活動について、経験と知識が豊富であり、実際に関わった実績を有する者を「CSマイスター」として文部科学省が推薦

令和2年12月21日(月)
10時配信スタート(限定公開)
1月22日まで！

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と地域とが共有し、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、連携・協働し、一体となって子どもたちの成長を支えていくことがより一層求められています。

「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」について、より具体的に実践につなげるために、全国のCSマイスターがわかりやすくひも解きます。配信期間中は何人でも、何度でも聴くことができます。あなたの知りたいことや学びたいテーマに自宅からピンポイントでアクセス！仲間と一緒に視聴することも可能です。私たち大人も学びを止めず、フォーラムの新しい形にチャレンジ！明日からの学校づくり、地域づくりの実践にお役立てください。

参加方法
デジタルフォーラムへの参加(視聴)をご希望の方は、視聴者向け情報発信用メールマガジンにご登録ください。文部科学省ホームページ「学校と地域でつくる学びの未来」から登録サイトにアクセスできます。
登録期間12月1日(火)より12月20日(日)17時まで

主催 文部科学省



東松島市教育委員会コミュニティ・スクール推進係
宮城県東松島市矢本字上河戸36-1 電話: 0225(82)1111 内線1251
FAX: 0225(82)1845
電子メール: c-school@city.higashimatsushima.miyagi.jp

<http://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/index.cfm/32,22113,107,html>

第7号

レッツ コミスク

Let's join community school

12月は、赤井小学校の紹介です。

目次:

- 第3回学校運営協議会が開催されました 1ページ
- 田んぼの活動では、田んぼレディス登場 2ページ
- 和太鼓で地域の心がひびきあ2ページ
- ボランティアスタッフ大活躍 2ページ
- 地域の偉人大槻俊斎に学ぶ 3ページ
- コミュニティ・スクール東京デジタルフォーラム紹介 4ページ

第3回学校運営協議会が開催されました

令和2年9月4日(金) 13時20分から開催された赤井小第3回学校運営協議会についてお伝えします。

13時20分から3年生、14時10分からは6年生の「俊斎学習」(総合的な学習の時間)の授業を参観後、15時10分から学校運営協議会というタイトな日程で開催されました。

授業の感想や意見をいただいたと協議に入りました。内容は、①新型コロナウイルス感染拡大予防に対する学校の対応について②各部会の今後の運営についてでした。

授業に関しては、「大人視線から見ても勉強になることが多かった。」「児童の集中力や発表がよかった。」など取組がよくわかったという意見がありました。

新型コロナウイルス感染拡大予防に対する学校の対応について説明があった後、和太鼓の発表やメディアコントロールのことなどが協議されました。



赤井小の取組

- 1 田んぼの活動に田んぼレディス登場
- 2 和太鼓で地域の心がひびきあう
- 3 ボランティアスタッフ大活躍



輝くひとみのきみが見たい
きみの輝く未来が見たい

ご存じですか? 「GIGA(ギガ)スクール」

Society5.0の時代を生きる子どもたちのためのICTを活用した教育スタイルのこと。大きく分けて、校内通信ネットワークの整備と児童生徒1人1台端末の整備の2つ事業があります。

令和2年度になって、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時にICT等を効果的に活用することで、全ての子供たちの学びを最大限保障できる環境を早急実現することを目指して、児童生徒1人1台端末整備の前倒しや在宅・オンライン学習に必要な通信環境の整備等が進んできています。